

事業者名	但馬米穀(株)	所在地	兵庫県豊岡市中陰 318-3			
代表者名	代表取締役 上杉 昌彦	連絡先	担当者名	常務取締役 木村 嘉男	電話	0796(22)2131
本社			地図			
						

事業名 ガス分計カウンターを利用した時間帯、用途別の新たな料金体系によるガス需要拡大事業
 事業内容 顧客のライフスタイルに合った料金プランを提供し、需要拡大と継続取引を図る事業

事業の狙い ①既設運用中の集中監視システム活用により、顧客の選択による料金プランを提供。
 ②顧客自身の使用スタイルに合わせた内容のため、透明化促進と満足度向上に繋がる。
 ③競合エネルギー対策としての効果及び、顧客との継続取引に大きく寄与する。

求める効果 ①明確な料金システムとする事で無駄を省き、暖房需要、給湯需要の拡大が期待出来る。
 ②ガス料金の詳細内容が把握可能である為、信頼度が向上し継続取引が図れる。
 ③顧客視点に立った事業推進とする事で、当社へのファンづくりに貢献する。

費用等 費用総額 8,421 千円 自己資金 4,211 千円 補助金 4,210 千円

事業実施前の状況 ①地域内の都市ガスは、大手都市ガス会社の子会社が存在するが供給世帯数は然程多くないため、LP ガスからの転換に関しては目立った影響は無い。
 ②関西電力によるオール電化攻勢も一時的には活発に行われていたが、現状は新築物件に対するものを除き沈静化している。台所へのIHヒーター設置のみの電化は少なく、給湯・暖房をも含んだ一軒すべてのオール電化が進められている状況となっている。
 ③また、給湯、暖房への灯油需要も高く、豪雪地域のような消費量までとはならないがLP ガス転換へのターゲットとなっている。

事業展開	事業開始日	7月10日	事業完了日	1月15日	期間	6ヶ月間
	人員体制	6名	社内	6名	社外	名
具体的展開	7月～9月	12日間	打合せ資料	補助金事業についての担当・役割打合せ 設置先の選定作業・資料作成 等		
	10月～12月	16日間	周知活動	導入予定先へ周知・説明・勧誘 等		
	11月～1月	27日間	設置工事	導入予定先への設置工事		
	11月～1月	27日間	センター操作	設置先へのセンター通信作業 設置後の確認作業		
	1月～1月	7日間	実績報告作成	補助事業関連調達先への支払完了 補助事業実績報告書作成		

補助事業推進担当者



執務室内



専用端末機操作中

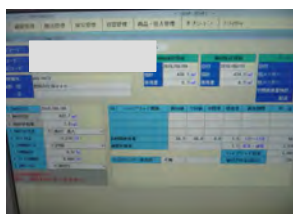


発生した課題点	<ul style="list-style-type: none"> ①設置予定先の顧客への説明不十分から、同意が得られず設置できないケースがあった。 ②当初予定していた設置工事に費やす時間が、予定していた時間より大幅にかかることが判明し 設置工事にかかなりの時間を要した。 ③既に設置済みの集中監視端末機を通じてのデータ通信であったが、分計カウンタの通信時間が今まで以上にかかることから、通信のやりとりも同様に時間を要した。 						
行った改善点	<ul style="list-style-type: none"> ①顧客への説明については、充分時間をかけて主人・奥様どちらへも理解してもらうこと。 ②設置工事とセンターとの通信やりとりについての作業手順の変更等を行なった。 ③既設の集中監視端末機の設置場所変更についても検討の上、分計カウンターを設置した。 						
得られた効果	<ul style="list-style-type: none"> ①設置先全てを集中監視端末機設置先にするにより、毎月のデータのやりとりに時間をとられることがなくなり効率化が図れた。 ②他燃料へ転換されたお客様からも、暖房器具として新たに受け入れられた。 ③既にご使用になられたお客様からも信頼度が増し、ファン作りに貢献した。 						
効果の額	<ul style="list-style-type: none"> ①事務処理時間の短縮 人件費・雑費他 複数の従業員に影響し合理化効果を発揮した。 ②消費拡大、顧客維持 経営全般 業績に大きく貢献し投資対効果が顕著になった。 						
自己評価	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>企画内容</td> <td>90点</td> <td>推進手順</td> <td>60点</td> <td>総合評価</td> <td>75点</td> </tr> </table>	企画内容	90点	推進手順	60点	総合評価	75点
企画内容	90点	推進手順	60点	総合評価	75点		

<新料金システム>



既設の集中監視システム設置先を対象に展開しており、顧客のマスター設定により区分している。集中監視センターからの各種データは専用端末機で確認し対応している。



顧客毎の台帳に検針データが入ると、新料金システムにより設定区分毎の検針数量が表示され顧客の請求書へ反映し、出力の後発送される。一部ハンディ検針もあるが、処理は同様にされる仕組みとなっている。



顧客設置先のガスメータ情報が集中監視センターを通じて送信され、緊急出動が必要な場合は昼夜を問わず対応している。夜間はスマートフォンに転送され出動している。

反省点

①他燃料との比較についての説明が不十分だったため、当初予定した燃転計画が予定通り進まなかった。

②運用中の集中監視システムに乗せての計画であったが、分計カウンターの通信時間が予想していたよりも時間がかかることによる通信障害が発生した。

システムイメージ

ソフト改修と運用イメージ

請求書郵送

テレメ検計
PR型メーター
マイコンE
送信機


検計・データ取り込み

手検計


販売管理システム ソフト改修要件

新料金メニューマスタ
料金表テーブル構成
ガス料金計算ロジック
データ集計
請求書作成
旧料金との差額表示
年間消費量推移
等 ソフト作成

請求書 郵送

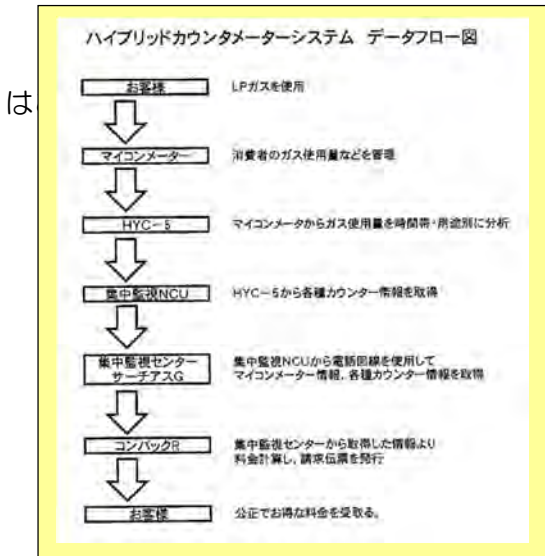


ハンディ検計



請求書詳細→

データフローと運用実績



新料金システムのデータの流についてはこの通りとなる。

運用開始から月毎の検針金額を集計したもの。圧倒的に燐房プランが多いが、販売数量 113.7%
販売金額 105.5%
といずれも前年を大きく上回っており成果が現れている。

新料金メニュー 運用状況(平成27年12月～平成28年5月)

請求方式	H27年1月		H27年2月		H27年3月		H27年4月		H27年5月		H28年1月		H28年2月	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
燐房プラン	192	2,236,087	182	2,738,222	192	2,487,198	192	1,825,159	192	1,405,909	192	1,012,807	192	1,326,588
無燐プラン	8	905,916	8	142,553	8	114,775	8	92,261	8	72,871	8	88,617	8	22,827
合計	200	2,342,003	190	2,880,775	200	2,601,973	200	1,917,420	200	1,478,780	200	1,101,424	200	1,349,415

備考注：
販売数量 113.7%
販売金額 105.5%

反響・意見等	社内	<p>①システム担当→データ処理が多くなり、細心の注意で対応している。</p> <p>②営業担当→お客様へのニーズに沿った提案が一層やりやすくなった。</p> <p>③経理担当→人件費が増すことなく、サービスの向上に繋がった。</p>
	社外 (対象先等)	<p>①顧客1→ガスファンヒーターの快適さにびっくりした。</p> <p>②顧客2→ガス料金を気にせずに使えるようになった。</p> <p>③顧客3→灯油の詰替えをしなくて楽になった。</p>
	業界等	<p>①これからいろいろと料金プランが提案できて羨ましいと思う。</p> <p>②今回実施された事業で得られたノウハウを一度知りたい。</p> <p>③料金透明化が求められなか、新たな取組として業界に広く周知したい。</p>
総合見解	<p>①電力・都市ガス小売り自由化に伴うエネルギー間での顧客の流動化が増々激しくなる可能性のある中、顧客への料金プランの提示により選択してもらう事が可能となった。</p> <p>②今まで提供してきた安心・安全に加え、快適にお得にガスを使用していただけようになり、当社の目的としている単位消費量増加を行うことのできる手段として、今回の事業実施により得た手法を用いて今後邁進していけるものとする。</p>	
今後の方針	<p>①今後取り換え予定のガスメータをハイブリットメータに随時変更し、最終的には全ての顧客へ対応できるように事業を進めていきたい。</p> <p>②いろいろな料金プランを提案し、全ての顧客が選択できる内容に仕上げたい。</p> <p>③更に、集中監視システムでの新サービス（HEMS・見守り等）を採用し、顧客の求めるニーズに対応し、盤石な体制を築いていきたい。</p>	
経営者の声	代表取締役	補助事業を通じた学んだことを生かし、今後自社において拡大推進することとし、顧客から一層信頼される販売事業者として確立していきたい。
	取締役	ガス業界の常識が非常識と言われる部分を業界全体で払拭し、事業を邁進して行く方向性として、学んだ事がとても大きいと思っております。
補助事業に対する要望等	<p>①今後顧客サービスを拡大して「LP ガス見える化」システムの導入を検討しているが、具体的な手法がまだ定まっておらず、業界で推奨されているものがあれば教えて欲しい。</p> <p>②同一の補助事業を実施する予定の場合の制限要件はまだそのままとなっているが、今後の方針としてはどうなのか？</p>	
日団協	<p>①平成28年度事業においては相当数の事業者の方々が「LP ガス見える化」システム構築に取り組まれております。明確な定義はされておませんが</p> <ul style="list-style-type: none"> 顧客先に設置されたガスメータ情報が常に集中監視システム等で取得出来、その情報が都度更新され、がサーバ等に処理・加工されたうえで保存されていること。 顧客先のインターネット端末により24Hそのサーバにアクセスすることにより情報の取得が可能であること <p>が要件と考えております。また、ガスメータ情報の取得も無線通信網やインターネット網を活用したものが今後動向についてはまだ未知数の状態です。</p> <p>②平成28年度より上記の「LP ガス見える化」システム構築事業を実施される場合については、お尋ねの制限要件は適用しておりません。</p>	
その他	<p>本事業に関するお問い合わせは、 常務取締役管理部長 木村 嘉男 宛にお願いいたします。 メールアドレス y.kimura@tanbei.co.jp</p>	